

一枚の絵が一大政変を呼んだ歴史がある。宋の神宗の7年、都の入口、安上門に群がる餓民の悲惨な姿を写した絵が、皇帝への上奏文に添付されていた。この時、黄河一帯は干魃に襲われ、農民は食を求めて流浪し、都開封はホームレスで溢れた。神宗の間に、諫官達は王安石の改革、新法の非を鳴らした。即位から7年、安石を強力にバックアップしてきた神宗の庇護も限界だった。史上有名な王安石の改革はここに頓挫し、宋は衰退に向かう。

宋王朝は、50年ほどの夷狄軍閥支配、五代十国時代の後漢民族が築いた国家だ。創業時代こそ優秀な漢人官僚の結束の下、素早い復興と繁栄を取り戻したが、花開けば虫が群がるのは世の習い、繁文縟礼に著

遊芸、冗吏

の増加に軟弱外交、その反動としての防衛力増強と、出費がかさんで国力が弱り始めた。その構造改革に取り組んだのが王安石の改革だ。この話、戦後から今日に至る日本社会の推移とよく似ている。

安石の改革は、時勢に合った至当なものだったらしい。例えば、均輸法は官物の輸送における不当中間利益の防

王安石の改革



石川 迪夫

いしかわ・みちお
—原子力安全基金盤機
構顧問。日本原子力
研究所東海研究所副
所長などを経て91
年、北工学部教授。
原子力発電とその安
全性が専門。兵庫県
出身、69歳。

た友達を石で叩き割って助けた逸話の持主だ。宋代随一の文化人だが、これは、人工的な遅れが加わる。その間に

に抵抗勢力の支配する古い農村社会で、干魃や飢饉が起きれば、それは絶好の口実だ。

10月1日より独立行政法人・原子力安全基盤機構が発足する。一連の不祥事に伴う信用失墜に対する政府規制側の体制改革だが、相手側となる民間産業界の態勢はどうなのか。

宋王朝は、50年ほどの夷狄軍閥支配、五代十国時代の後漢民族が築いた国家だ。創業時代こそ優秀な漢人官僚の結束の下、素早い復興と繁栄を取り戻したが、花開けば虫が群がるのは世の習い、繁文縟礼に著

止、青苗法は農民が買う種籾を低価格とする法、保甲法保馬法は農兵一致をめざす一種の屯田法だ。全体として搾取を止め民間活力を利用する政策だ。

が諫官の大将だ。「春宵一刻值千金」の詩で知られる蘇軾は安石と衝突して杭州へ流謫されるほどの抵抗ぶり。小泉さんより遙かに高度な抵抗勢力相手に、安石めげずに改革を進めた。

「餓民の図」は、この隙をついた旧法派の反撃の烽火だった。以降30年ほど、新旧両派の政権抗争が続くが、安石の目指した民間活力の利用は徐々に社会に浸透し、実効を發揮してゆく。

主役の豪傑百八人が結束して挑む所だ。一人一人では官に敵わないのだ。だから梁山泊に集まって抵抗した。この抵抗が市井に住む人々の共感を生み、翻って世の中を動かしていった。

だが改革には痛みを伴う。甘い汁の吸い口を失った商人や地主は猛反対だ。困ったことに官僚の大多数が、この地主富裕層の出身だ。安石の抵抗勢力は同僚の官僚群だったのだ。

歴史家は安石の失脚を、改革のスピードが早すぎ反対を強めたためとするが、僕は異見を持つ。世間とは、新しい法や制度に慣れ従うのに手間どるものだ。それは丁度、入力信号から作動

の抵抗物語と言っ。生き生きとしたお兄さん達の描写とその人氣が、改革へくなくないし、改革も実らない。

の民衆の支持を示している。日本の構造改革、小泉さんの再選によって、これからも進むことだろうが、気になるのはスピードの遅さだ。鉄は熱い内に打てで、やるのなら早く徹底的にだ。のんびりした宋の時代ですら、安石は矢継ぎ早に新法を発布した。だが思い半ばに死んだと言っ。「餓民の図」が何時突きつけられるかは、何人も分からないのだ。